

第4回富里市都市計画マスタープラン有識者懇談会（平成30年度第1回） 議事録

〔日時〕平成30年10月4日（木）14:00～16:00

〔場所〕すこやかセンター2階会議室1

■出席者

石橋副市長

（座長）富里市商工会：経済

寒郡 茂樹

（委員）千葉県県土整備部都市整備局都市計画課長：都市計画

代理：新井 悟

富里第一小学校区まちづくり協議会会長：防災

川島 年雄

千葉県印旛農業事務所改良普及課長：経済

市原 重信

成田国際空港株式会社執行役員

共生・用地部門地域共生部長：経済

関口 順一

株式会社ちばぎん総合研究所調査部長：経済

関 寛之

富里市民生委員児童委員協議会会長：福祉

宮川 朱実

富里市シルバークラブ連合会：福祉

栗飯原有禧

成田赤十字病院副院長兼事業部長：医療

込山 克司

千葉交通株式会社専務取締役：交通

代理：河合 俊彦

富里市廃棄物減量等推進審議会会長

大道 正義

（事務局）吉池都市計画課長、小川主幹、戸村主査、矢口副主査

大日本コンサルタント：古谷

（傍聴人）2名

■欠席者

千葉県工業大学副学長：都市計画

鎌田 元弘

千葉大学法政経学部：協働

関谷 昇

富里市学校専門指導員：教育

渡邊 薫

■配布資料

- ・平成30年度第4回富里市都市計画マスタープラン有識者懇談会 次第
- ・富里市都市計画マスタープラン有識者懇談会委員名簿 第4回有識者懇談会
- ・現行都市計画マスタープランからの改定のポイント…資料1
- ・まちづくりの実現に向けてー施策目標の整理 …資料2
- ・富里市都市計画マスタープラン（素案） …資料3
- ・8月6日版からの主な校正事項 …資料4

1 開会

2 富里市副市長（策定委員会委員長）あいさつ

3 座長挨拶

4 議題

- ・まちづくりの実現に向けての素案について

(1) 現行都市計画マスタープランからの改定のポイント

- ・【資料1】説明

(2) まちづくりの実現に向けて－施策目標の整理

- ・【資料2】説明

(3) 富里市都市計画マスタープラン（素案）【取扱注意】

- ・【資料3】説明

新井委員：

- ・都市計画の観点から申し上げると、都市計画マスタープランというのは、都市の構成を明らかにして、市民に向かうべき方向性を示し、その実現のために行政が実施する施策を市民に明確にするということが一番の目的だと思う。県では、都市計画を考える上では、事務局からも説明があったが、マスタープランに記載された計画の実現可能性が重要であると考えている。まさに今日の議題かもしれないが、計画の実現のために何をしていくべきなのかという事を一つ一つ丁寧に拾っていく必要があると考える。また、都市計画における制度では、都市計画体系上の上位計画である県の都市計画区域マスタープランや市の総合計画との整合をしっかりと見ていただくという事も必要かと思う。一方で、広域的な観点から申し上げると、近隣市町村の計画との不整合が生じていると、結果的に市の計画が達成できないという事も発生し得るかと思うので、そういった検証も必要なポイントとなってくる。もう一つは、資料2の中で実現に向けた具体的な実施の内容の整理もしていただいているが、実施機関との調整を市役所の方でしっかりと行程管理も含めて進めていただく事で、この計画が実現に向けて花開くのではないかと考える。

川島委員：

- ・資料2の都市拠点、中沢地区の施策目標で、市有地の活用に向けた方針の検討がなぜ、長期設定となっているのか。
廃棄物の処分場計画で、20年近く前に取得した土地であったかと思うが、政策面の関係で、成田市に一部、その処理場が作られたため、その後の計画は現状で未知数であ

る訳だが。後は、市有地の市街化調整区域における土地利用方針及び地区計画ガイドラインが策定されているが、そこで調整ゾーンにゾーニングされている関連で、目標期間が長期となったのか。その辺の整合性はとれているのか。

それとも、資料 3-P. 49 で④ごみ処理施設との関係なのか。

また、資料 2 の関係各課との調整の中で、担当課から意向が出て、長期設定となったのか。何故、長期なのかを知りたい。

事務局：

- ・この土地は、ごみ処理のために市が取得したという経緯であったが、その後に成田市にごみ処理機能の一部が作られて、跡地をどうするのかということは庁内の中でも議題になっていた。

市街化調整区域における土地利用方針は都市計画課が策定する時に、広大な市有地については、調整区域でありながらも、何らかの検討を進めていかなければならないと懸念はしていた。土地を所管している部署にも、この土地の方向性についての聞き取りはしていた。ただ、昨今の経済状況の中で、中々、市としても地域が望むものが色々あるにしても期待に応えられるような財力もなく、短期だと 5 年以内、中期だと 10 年以内と区分けはしているが、そのスパンの中で明確な土地利用を図っていく方針が得られなかった。

また、一部では平成 28 年に環境担当課の方で、処理施設計画のプランニングは仕上がっていると聞いている。だが、ボリューム的には企画課が所管する部分が多いというところで長期的な位置づけとさせて頂いた。

川島委員：

- ・この地域については潤う話ではない。酒々井方面と市中心間の周遊性があるから、出来れば同じ様な形で進めてもらいたい。
地域住民には過去に処分場の住民説明会を行っているし、付帯的には地域コミュニティの場所としても考えている話を市より説明がされている。
集会での住民参加率は高かった。望む思いで参加した住民が結構いる。
- ・工業拠点として、酒々井 IC については、資料 3-P. 38 の拠点型産業振興ゾーンに記述されているが、今の富里市の財政面を考慮する中で、ここの整備を進める事によって、多大な影響があると思う。酒々井 IC 周辺については、着実に推進するべきだと思う。
- ・供給処理施設の公共下水道の整備の目標期間が短期との事だが、資料 3-P. 48 の①汚水排水施設に、「市街化区域、その周辺地域等に対し」といった記述がされているが、その周辺地域等とは、隣接している市街化調整区域、また、調整区域の中に汚水の幹線が通過している区域も含まれるのか。

事務局：

- ・汚水排水施設の関係については、所管は下水道課であるが、基本的には公共下水を入れる場所は、市街化区域となる。ただ、市街化区域と市街化調整区域の区域区分の設定の界が道路の中心になっている事が多い。そのため、例えば市街化区域にある家と道路を挟んで反対側にある家が市街化調整区域内であった場合に、その前面の道路まで下水道本管が来ているのだから、接続できるのではないかといった要望については区域外流入という事で認めている。それらが拡大して、調整区域にある一団の団地等も含んでいるといったケースも現状ではある。

市街化区域周辺等というのは、おそらく、そういった区域も入っている可能性がある。

川島委員：

- ・汚水幹線に関して、調整区域内に入っている場合、その点はどうなのか。調整区域の中でも既に開発された小規模な団地がある。そこについては、その団地自体で処理場を持っている。その近くを幹線が通過している箇所もある。それらについては、短期、長期という事ではなく、先行きは幹線に接続させた方が、好ましいと思う。災害が起きて団地の汚水排水施設が故障した場合（大体の施設は古くなってきている）、生活に支障をきたす。将来的に可能であれば、その辺も促進した方が良いのではないか。
- ・雨水排水施設だが、台風等で降雨量が増加している。何年か前に富里でも 300 ミリ強位の雨量が出た時に、幹線道路の一部は通行止めとなり、道路冠水は数ヶ所で発生した。河川整備は非常にお金も掛かるし、期間は長期に渡る。そういった面から言っても、資料 3-P. 48 で、流域の調整池の整備が重要だと思う。今年は 8 月に 500 ミリ位の予報が出た時があった。幸いにも富里市には影響がなかったが、稲作の刈り入れが終わる前であった。予報どおりであれば農作物の影響は相当、出たであろう。今回、この資料の中で、雨水排水施設の流域調整池の整備については雨水災害の観点からとても重要。現に、ある地域においては、調整池の工事中である。市の取り組みが、防災・災害面から見れば、進んで来ている。

市原委員：

- ・私共、農業事務所は農業振興をさせていただいている部署である。農業を振興する際は、一般市民の理解が大事である。農業を続けて行くためには大切であるし、一般市民が安心・安全で豊かな生活を送っていただくためにも、農業との調和は大事である。農業者が気を付けること、また、一般市民も正しく理解してほしいものが、農薬関係のところ、当然、農業者は適正に農薬等を使用しなければならないし、努めているところではあるが、時々、一般市民から、農薬使用に関して過剰すぎるのではないかという程、心配される方がいらっしゃる。農薬という事は、結局、虫を殺したり、病気を抑えたりするものではあるが、今の農薬は生物安全性など、非常に精査されてきている。正しく使用していれば、危険性は低い。あまりにも過剰反応されてしまうと生産者としては農業生産活動に支障が出ることもある。農業者が農薬を正しく使用す

るという意味では、農業事務所としても、市役所の農政課もそうであるが、理解をしていただけるような発信が必要かと思う。

- ・有害鳥獣の関係で、富里市の1データによると、平成29年の被害額が455万円と出ている。県全体で見ると億を超える。イノシシ・ハクビシン等が増えて来ると、農業を続けていく際に、これらによる食害被害や、更には、市街地に出没して一般住民に被害を加える等、有害鳥獣対策は農業だけではなく、一般市民の平和な生活を守るためにも必要であると思う。農地荒廃や、荒地が増えてきて、市街地と山との境が、はっきりしなくなってくると、鳥獣たちも市街地に来やすい状態になる。荒廃農地を解消すべく、草刈り等を徹底しているところではあるが、そこら辺は農業者だけではなく、一般市民の皆様にも理解をしていただき、有害鳥獣を街中に近づけないために、連携してグレーゾーンを解消していく事が必要である。また、有害鳥獣を駆除するため、農業者で罠の免許を取得する方が増えてきている。ただ、罠を設置した時に、知らない一般市民の方がその罠で怪我をする事がないように、情報共有は必要である。農薬・有害鳥獣を一つの例として、農業者、一般市民の情報交流・相互理解の推進をこれからも続けていただきたい。

関口委員：

- ・資料2の目標とするまちづくりの拠点、開発構想のところ、成田空港機能強化に伴う構想内容の検討について、目標期間が長期（概ね20年以内）と位置付けされているが、この目標期間について、意見を申し上げる。成田空港は更なる機能強化として第3滑走路等の整備を計画中である。第3滑走路等の明確な整備時期は定まってないが、目標としては10年位で完成させたいといった中で、今、動いている。発着回数が50万回になるのが、需要予測でいくと、早くても2032年、遅くても2048年。今後20年の間に50万回になると思われる。今、空港内で働いている従業員は4万3千人いるが、50万回時の想定だと7万人は必要となる見込み。お客様も今、4000万人のところ、7500万人位になると予測されている。このような動きがあると、世の中は、もっと早い動きが出て来ると思われる。

構想内容検討の目標期間は、長期と位置づけられているが、その辺は世の中の動きを見ながら、なるべく早めに検討された方が、良いのではないかと。

関委員：

- ・国が地方創生という事で動いているが、やはり人口の維持、減少抑制が、重要であると思っている。今回の計画を拝見すると、人口の将来フレームとして2036年に48,000人と設定されている。また、人口推計では目標年度あたりは、43,000人となっている。何もしなければ、43,000人となるであろうところを48,000人に維持しようという計画で、かなり意欲的な印象を持った。

また、この都市計画マスタープランに関しては非常に良く出来ていると思う。

- ・資料1の現行の都市計画マスタープランが如何に時代遅れなのかという事がこの資料

から良く分かる。将来フレームで人口が増加していくと設定されているが、これは一昔前の考え方である。次期マスタープランでは、かなりの赤字部分が新しく付け加えられている。また、都市づくりの目標では大切なキーワードが用いられている。持続可能や自立、富里の人など。また、これからは富里市だけで何とかなる時代ではないので、広域連携も必要になってくる。このマスタープランを実行していけば、かなりの部分で人口減少を抑制できるのではないかと期待を持たせるような計画になっているのではないかと思う。

そんな中で、これを2年後に進めて行くにあたっての意見ではあるが、資料2でこの地域のプラスの変換要因として、成田空港の機能強化は最大の変換要因である。発着回数が50万回となれば、人の動きも2倍、貨物は1.5倍になる。いかに富里市が踏み込んでいくのかが非常に重要で、酒々井IC周辺をいかに活性化していくのか。大和・根木名地区をいかに開発拠点としていくのか。この二つがおそらくベースとなってくるのではないか。何れも検討となっているが、検討という言葉は非常に便利な言葉である。検討している内に終わってしまわないよう、もう一步踏み込んだビジョンというか、そういうものの策定が必要になってくるのではないか。本年度より横芝光町が土地利用ビジョンを策定されている。要は、地域間競争の時代。企業誘致にしても、これから人口が減っていくので、今ある企業の立地ニーズがいつまでもある訳ではない。5年後10年後には立地ニーズもどんどん少なくなっていく。時間との競争部分があるので、やはりスピード感を持った都市マスタープラン計画の推進が重要かと思う。

- ・ハードに関しては、全体構想にある多極ネットワーク型コンパクトシティという考え方もすごく素敵だと思う。これはこれで進めて行くとして、やはりソフト面。いかに上手くまわしていくのかが重要となってくる。成田空港は機能強化に伴い約3万人も雇用が増えている。その3万人の中にいかに富里市の若者に働いてもらうかという視点が重要。ちょうど今、小学6年生の子どもが10年経つと大学を卒業して就職の時代となる。その子達が成田空港で働いてくれば、富里市から出て行かずに人口減少の抑制となる。

例えばの話ではあるが、キャリア教育。既に富里市では行っているかと思うが、空港の職場見学を通して、成田空港を将来の職場として子ども達にいかに認識してもらうか。ソフト事業も含めて組み合わせたまちづくりが重要になってくるかと思う。是非、この計画を実現していただきたい。ちばぎんグループとしても、お手伝い出来ることがあれば、支援させていただきたい。

宮川委員：

- ・資料3-P.49の④児童福祉施設についてだが、幼稚園、認定こども園等、作っていただき、また学童保育も充実しており、安心して子ども達を預けられる施設がかなり出来てきたのだが、学童保育支援員の成り手がいないという問題がある。民生委員が子育てサロン等をいろいろと10年以上、続けてきているが、幼稚園や認定こども園等が出来てきた事で、そちらに通われているから、参加人数が少なくなっている事は嬉

しい事である。その辺は子育て支援をそれ程、せずとも良くなってきている。ただ、支援員の成り手が中々いないという現状と、2年後には資格がないと開けない等、そういう面も出て来ている。そこら辺が難しいところである。また、市の財政も苦しくなってきた補助金が削減されていく中で、もう少し、やり方を考えて、スリム化して使う所にはお金をしっかり使う等、切り替えをしなければ行けない時期なのかと感じている。

- ・農家については後継者不足である。高齢となって農作業が出来なくなり、近所の農家に土地を貸し出したり、跡取りがいない、未婚の人が多い。

農業を継続していくためには出会いの場をセッティングする等、場を設ける事で、少しは状況が変わるのではないか。浩養小ではJAより新鮮な野菜を提供していただき、出荷する時に子ども達とお年寄と一緒に安心・安全な野菜のPRを行っている。やはり、後継者不足により農業を継続していけなくなってしまうと、せっかく美味しい野菜を作ってくださっていたのに、先細りになってしまう。何か良い方法はないものか。

粟飯原委員：

- ・資料3は、最終的に市民の皆さんも目を通すものであると思うが、私が読んでいてわからない所は、他の市民の皆さんも同じであろうと思う。細かい部分については申し上げられないが、相対的にみて、良く出来ているのではないか。特に平成14年に出来たマスタープランと見比べてみたところ、今回の序章と第1章はかなり詳しく、濃い表現で書かれていると思う。前回のプランは読んでもしっかりとわからなかった。今回のプランは非常に緻密な書き方なので、わかりやすい。全体構想と地域別構想は大体、同じ様な考え方であった。これについて、資料3-P.29でゾーニングが3つに分かれていて、『集約型都市交流ゾーン』『拠点型産業振興ゾーン』『保全型農業振興ゾーン』とあって、この中の『拠点型産業振興ゾーン』というのは何であるか疑問である。どちらかという、工業団地が二つあるし、団地型や分散型にした方が、素人にはわかりやすいと思う。拠点型という意味の捉え方が分かり辛い。それと、拠点の設定が複雑である。資料2を見て、理解はしたが、私なりの解釈としては、広域拠点、地域拠点、生活拠点は非常に分かりやすいが、にぎわい拠点、とみさと中心拠点、ふれあい拠点、医療拠点と、一つの大きな拠点があり、その中にまた次の拠点があるという事は何となくわかるのだが、あちらこちらに拠点が出来来るので、理解する気がなくなる。統制がとれていない感じがする。
- ・シルバー代表として出て来ているが、少子高齢化の時代、高齢化した時に世話になるといったら福祉施設である。これについては、かなりあちらこちらに記載されているので、良いと思う。私の居住地は日吉台であるが、問題なのは成田方面への道路の改修である。現在、進行中であるとは思いますが、どのような形になるのか住民は皆、興味を持っている。その事が一切、書かれていない。その辺が心配である。
- ・一部、間違いがある(3箇所程)。今日、ここで指摘はしない。

事務局：

- ・お配りした資料から、先行して日時校正が入っている。誤字等はこの後で説明する。

込山委員：

- ・富里市は道路整備に力を入れている市で素晴らしい市だと常々、思っていた。今後とも、頑張っていたきたい。また、短い時間でこれだけのものを事務方の方々に作っていただき、個々ではまだ議論するところがあるかと思うが、本当に良く、ここまで持ってきたと感じている。私は赤十字の職員であるので、医療について少し話をさせていただく。日吉台1丁目に医療拠点という事であるが、今の医療というのは1病院だけで全てを賄って、元気になったら退院という方向ではなくて、それぞれの病院がその機能の役割を分散しており、幾つかの役割を果たしながら、患者様のやりとりをする形となっている。例えば、これから富里市の高齢化がどんどん進んで行くと思うが、高齢となると大腿骨骨折や、ちょっとした転倒で動けなくなるケースがある。高度急性期の時にはオペをしなければならない。その場合、当院に直接ストレートに患者さんが運ばれてくる。オペ後はなるべく早めにリハビリが充実した病院に転院をして、完治して早く歩けるようにするのが、今の医療である。まず、市民の方々には、それぞれが役割を分担しているという事を理解していただきたい。ベースとなるのは、かかりつけのドクターを持っていただき、普段はかかりつけの診療所のドクターと密接に自身の健康管理を進めていきながら、いざという時に急性期を担当する病院に行く。そして急性期を脱したら、回復期の病院に転院するといった形で、どうしても高齢者が増える時代に入っていますので、回転を上手く進めるような考え方で今後も計画をしていただけると、よりスムーズに行くのではと考えている。

河合委員：

- ・人口の所で、目標年2036年に48,000人という事で、減り幅が少ない。色々な会議に出ていると、人口に関してはかなり悲観的な見方をする自治体が多い。ある程度、このくらい維持される計画であると我々、バスを運行する側からみても、お客様の確保という点では心強い。
- ・進捗管理の考え方でPDCAサイクルをイメージされているが、これは本当に大事な事だと思う。20年は長い期間であるので、時代はどんどん変わっていく。20年前といたら、成田市にイオンショッピングセンターが出来た年（平成12年）である。20年前のイメージが想像つくかと思い、良く事例として上げている。こういったチェック体制や見直しをイメージされているのは良いことだと思う。
- ・バス事業に関して、大型二種のドライバー確保で、各社かなり苦しんでいる状況にある。生産年齢人口そのものが減ってきているので、仕方のない事ではあるが、人の取り合いが起こっている。各社はドライバー養成として、免許のない人を会社経費で教習所に通わせて取得させる等で、対策している。昔は募集すれば、いくらでも応募があったが、今は、会社説明会で話をして、いかに入社試験を受けていただけるかとい

った状況になっている。マスタープランに、路線バスについても書かれているが、なんとか維持できるような方向で頑張っていきたい。

大道委員：

- ・買い物に行くときに常々、感じるのが、スーパーではリサイクルの収集をかなり大規模に行っているという事。例えば、言葉として食料品などの買い物のついでにリサイクルといった表現は富里市として出来るのだろうか。業者だけで何とかしようという事よりも、行政と連携をとれたら良いと思う。
- ・1 住民としては、医療の拠点化という事で、書かれているが、かかりつけの先生という事を考えると、身近な医療という事で拠点は拠点としても開業医の先生とのネットワークを行政としてももう少し上手く、市民が活用できるような、施策を考えていただけないのか。病院の待ち時間が長い為、短くても3時間はかかる。込山先生のところも大変なご苦勞をされていて、頑張っておられるし、駐車場の整備等も、ものすごく頑張っておられる。日吉台に大きな病院があるが、その駐車場と比べると成田赤十字病院はものすごく大きい。開業医の先生達と連携して、常々、健康維持という事を住民が考えながら、身近な医療という事で、こういったプランの中に表現として落としこめないのか。
- ・空き家対策についてであるが、人口減少をもう少し改善するという意味でも空き家に対して、周辺に住んでいる人が共同で活用できる等、そういった施策は考えられないのか。事例として、有料ではあるが、日吉台にある中学校の上のホテルの部屋を借りて、月に2回位、参加者は高齢者が多いが、集まる事をやっている。それぞれ楽しい時間を過ごしている訳だが、こういった事が住宅地の身近なところに整備されると良いのではないか。または、小学校の生徒数がものすごく、減ってきていて、教室も空いている。空き教室の活用等。行政の垣根を超えるのは難しいとは思いますが、具体的にご検討いただけないだろうか。

(関谷委員からのコメント：事務局読み上げ)

寒郡座長：

- ・空港機能強化の話について、何人かの委員が仰っていたが、その中で気になった事が、来年になると思うが、県の総合企画の方から、非常に積極的なものなのか、あるいは現状の中で各市町村の方向性だけに留まるのかは分からないが、雇用については、少なからず空港で3万人は増えると思われる。空港周辺の関連する産業も含めるともう少し増える可能性がある。そういった人達を如何にこの地域の中に、取り込めるか。全体の空港周辺の計画と駐車場の計画と含めた中で、人口スキームの問題は、市が作った48,000人はこれを目指してやっていくしかないのかと思う。PDCAは5年スパン。影響がある事が県からも出て来ると思う。根木名の周辺の開発等も含めた中では、行政主導でやるべき事もあるかと思うが、これだけ財政状況が厳しくなっていく中では、

ある程度、エリアでゾーニングをしながら民間の活力に頼っていくというか、民間がどんどんやっていけるような、環境だけは整えていきたいといった意志は感じる。

新井委員：

- ・人口に関して言えば、富里市が掲げている 2036 年（平成 48 年）の目標とする将来人口が、48,000 人。一方、国で統計調査を行っている国立社会保障・人口問題研究所の推計人口は 40,000 人である。8,000 人程増加させる、意欲的な目標となっている。この地域の特性としては、成田空港の機能拡張がとても大きなファクターとしてある。今日の会議の中でもあった、横芝光町では土地利用ビジョン策定の委員会を今月から開催することとしており、芝山町ではマスタープランの検討を進めているなど、近隣各市町でも色々な検討が行われている。県としては、各市町が空港機能の拡張という一つの変化点をどのように街の発展に活かしていけるかということを工夫していただきたいが、一方で、広域的な観点からの整合性も必要と考える。自分が良ければ何でも良いというスタンスで取り組まれてしまうと、長期的には周辺地域も含めて悪い方向に進むことが危惧される。その辺のバランスを考えながら、調整を十分に図っていただき、結果的に富里市が良い方向に向かっていけばと思う。

（４）８月６日版からの主な校正事項

- ・説明

５ その他

- ・事務局より、今年度の作業内容、次回懇談会の開催予定について報告

６ 閉会